

綜合科目

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
憲 法	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>憲法は「統治機構」と「人権」の二つの部分から成る。この二つは相互に密接に結びついている。すなわち、憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構が作られているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が保障される。これが憲法の構造である。そして、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて機能する。憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することが、この授業のテーマである。</p>		
《学習成果》		
<p>レポ ー ト：国家の統治機構・三大基本原則の構成が学習でき、国民主権・基本的人権・平和主義が我々の生活にどうかかわっているかを理解することができる。</p>		
<p>科 目 試 験：権力者の横暴を防ぐ最高法規の意義を深めるとともに、どんなことを基本に我々は生きていくのかを、理解することができる。</p>		
授業の概要		
<p>日本国憲法の全体像を理解できるようにする。初めのうちはやや難しいと感じるかもしれないが、テキストを読むうちにだんだん分かるようになってくる。条文を重視し、偏りのない解釈に基づいた解説をする。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法と立憲主義・日本国憲法史 2. 日本国憲法の構造・基本原理・象徴天皇制 3. 基本的人権の保障 4. 精神的自由権 5. 身体的自由 6. 経済的自由権 7. 社会権 8. 参政権と国務請求権 9. 統治機構の基本原則 10. 国会と立法権 11. 内閣と行政権 12. 裁判所と司法権 13. 財政 14. 地方自治 15. 憲法改正 		
テキスト		
「憲法」（配本テキスト）		
参考書・参考資料等		
「ポケット六法」「デイリー六法」「コンサイス六法」などの「六法」		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （レポート評価はルーブリック評価を用いる）</p>		
<p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		

授 業 科 目 名	単 位 数	学 習 形 態
情報リテラシーと処理技術	2単位	レポート・科目試験・スクーリング

授業のテーマ及び学習成果

情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付ける。

《学習成果》

- レポ ー ト：最新の情報セキュリティインシデントについて理解し適切な対応ができるようになる。
 科 目 試 験：情報通信技術（ハード・ソフト）について理解し効果的に活用できるようになる。
 スク ー リ ン グ：ワープロ・表計算ソフトの基本操作ができるようになる。

授業の概要

テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習する。

授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

【通信授業】

1. 情報化社会
2. コンピュータの発展
3. ハードウェア
4. ソフトウェア
5. 情報ネットワーク
6. インターネット
7. 情報システムの課題

【面接授業】

1. Windowsの基本操作
2. 文書作成の基本①（書式設定）
3. 文書作成の基本②（図形・表）
4. 文書作成の基本③（ページ設定）
5. 表計算の基本①（書式設定）
6. 表計算の基本②（計算式・関数）
7. 表計算の基本③（グラフ機能）
8. 表計算の基本④（データベース機能）

テキスト

「情報リテラシーと処理技術」（配本テキスト）

参考書・参考資料等

「情報セキュリティ 10大脅威2016 ～個人と組織で異なる脅威、立場ごとに適切な対応を～」
<http://www.ipa.go.jp/files/000051691.pdf>（独立行政法人情報処理推進機構 2016/11/10現在）

学生に対する評価

【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
 （レポート評価はルーブリック評価を用いる）

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する

【面接授業】

領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	10%	授業に臨む姿勢、積極性を基準とする。
課 題	30%	授業内で指示した課題が提出されているかを基準とする。
そ の 他		
単 位 認 定 試 験	60%	筆記や実技などでの試験を行い、その結果を基準とする。
特 記 事 項	上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
健 康 科 学	1 単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>日々健康で勉学や仕事に打ち込むには、心身ともに健康でなければならない。今日、私たちを取り巻く社会や環境、生活の変化は私たちの健康に多大な影響を及ぼしている。本講義では、そのことについて客観的に分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。</p> <p>科 目 試 験：運動の基礎理論および運動処方を知ることにより、健康な生活を送ることができるようになる。</p>		
授業の概要		
健康科学のテキストにより科学的健康づくりを学ぶ。		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活と運動 生活習慣病について 2. 薬物・喫煙・飲酒と健康 3. 健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る 4. 救命救急 救急処置についての知識と対処法、AEDの取り扱い方 5. 運動の基礎理論 体力の概念とトレーニング理論とその方法について 6. 運動処方① 運動処方について学ぶとともに熱中症の対処法について 7. 運動処方② ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチについて 8. 自己の健康 自己のライフスタイルでの健康づくり 		
テキスト		
「健康科学」(配本テキスト)		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (レポート評価はルーブリック評価を用い行う)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
スポーツ（実技）	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果		
<p>生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する講義も適宜行い、健康と安全に留意しながら個人的・集団的スポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。各種のスポーツを仲間とともに技能面の上達を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる。また、ニュースポーツも体験・理解する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球などを仲間とともに楽しみ、技術的に上達し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようになる。</p>		
授業の概要		
<p>各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持・増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。</p>		
授業計画 スクーリングによる面接授業		
<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス バレーボール① 基本練習 バレーボール② 応用練習 バレーボール③ ゲーム・審判 体づくり運動、エアロビクス運動、ダンス バドミントン① 基本練習 バドミントン② シングルのゲーム バドミントン③ ダブルスのゲーム バスケットボール① 基本練習・応用練習 バスケットボール② ゲーム・審判 卓球① 基本練習 卓球② シングルのゲーム 卓球③ ダブルスのゲーム ニュースポーツを学ぶ（ティーボールなど） ウォーキングとその効果について 	<p>※施設・用具の都合で実施できない場合は、他の種目に替える場合もあります。その際、個人的・集団的スポーツをバランスよく取り扱います。</p>	
テキスト		
「健康科学」（配本テキスト）		
参考書・参考資料等		
特になし		
学生に対する評価		
領 域	割 合	評 価 基 準
受 講 態 度	20%	スポーツ種目に取り組む意欲・態度を基準とする。
課 題	10%	ペアや仲間とスポーツを楽しむためのリーダーシップや周りへの配慮ができていないかを基準とする。
そ の 他	20%	各スポーツ種目の技能やその上達度合を評価する。
単位認定試験	50%	受講により、スポーツ観がどのように変わり、自己や周囲の人の健康にどのように関わるかを論じられているか基準とする。
特 記 事 項	上記4領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	

授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
英語コミュニケーション	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果		
<p>近頃では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本授業では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場に必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目標とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：平易な英語で書かれた物語および子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。</p> <p>科 目 試 験：英語表現の基礎となる文法・構文を用いて英文を作ることができるとともに子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。</p>		
授業の概要		
<p>授業の最初に、英語表現の基礎となる文法事項や基本構文の復習および練習を行う。その後、保育園でのさまざまな生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。</p>		
授業計画 テキストによる通信授業		
<ol style="list-style-type: none"> 英語の文法(1) (動詞、形容詞・副詞) 英語の文法(2) (比較、代名詞、疑問詞) 英語の文法(3) (進行形、完了形、受動詞) 英語の基礎構文(1) (5文型) 英語の基礎構文(2) (修飾語句) 英語の基礎構文(3) (接続詞、仮定法) 入園準備に必要な英語の学習 登園・降園に必要な英語の学習 室内遊びに必要な英語の学習 外遊びに必要な英語の学習 健康・病気・けがに必要な英語の学習 運動・お散歩に必要な英語の学習 食事に必要な英語の学習 工作・お絵かきに必要な英語の学習 おたより・行事に必要な英語の学習 		
テキスト		
「英語コミュニケーション」(配本テキスト)		
参考書・参考資料等		
「新・保育の英語」森田和子著(三修社)(ISBN:9784384333992)		
学生に対する評価		
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (レポート評価はルーブリック評価を用い行う)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する</p>		